

# 2011 年度研究助成 研究成果報告書（HP掲載用）

## 家庭血圧測定における記録用紙への測定値の転記ミスが起こる頻度および測定条件が満たされた測定記録の割合の検討

福岡女子大学 栄養健康科学専攻 高橋 彩夏

### 【研究要旨】

家庭血圧は血圧を知る上で有効なアセスメント手段の1つであるが、その測定アドヒアランスに関する報告は少なく、また、記録の選択バイアスも指摘されている。そこで、健常男性における複数期間の測定指示に対するアドヒアランスと記録の選択バイアスについて検討した。測定アドヒアランスは時間経過とともに低下しており、また、血圧計に保存されたデータを確認するとアドヒアランスと記録精度がともに向上していたことより、測定者への働きかけがこれらの向上に有効であることが示唆された。

### 【研究目的】

家庭血圧は血圧を知る上で有効なアセスメント手段の1つであるが、その測定アドヒアランスに関する報告は少なく、複数期間の測定指示を行った場合や健常者を対象としたアドヒアランスの報告は皆無であり、アドヒアランスの算定方法も明確ではない。さらに、測定値の記録に関しては、選択バイアスの可能性も指摘されている。そこで、本研究では、健常男性における4回の家庭血圧測定指示に対するアドヒアランスと記録の選択バイアスについて検討した。

### 【研究方法】

対象は、役所や企業に常勤勤務しており夜勤等の交代勤務がなく、研究同意が得られた、40～60歳代の健常男性193名である。職場での健康診断時の血圧が正常高値(130-139/85-89mmHg)で高血圧治療等を受けておらず、産業医の許可が得られた上記協力者に血圧計を配布し、血圧測定と記録表への記入を依頼した。血圧は起床直後3回、7日間連続で、2010年6月～2011年2月の間に4回（Ⅰ：血圧計配布直後・記録票のみ回収、Ⅱ：6週間後・血圧計も回収、Ⅲ：4か月後・記録表のみ回収、Ⅳ：7か月後・血圧計も回収）、の測定を指示した。血圧計には、測定時間・血圧・脈拍値が自動的に保存されるオムロンデジタル自動血圧計（HEM-7080IC）を用いた。解析には、回収できたⅠ：193、Ⅱ：191、Ⅲ：157、Ⅳ：167名分のデータを用いた。アドヒアランスは、血圧計に保存された測定値（実測値）または記録表に記入された血圧値（記録値）が1回/日以上ある者の割合（通常）と、3回/日測定し正確に記録している者の割合（遵守）を比較した。また、血圧計に保存されたデータから測定時間に該当する実測値を抽出して個人の平均値を算出し、記録値の平均値との差について、paired-t検定を行った。

### 【研究結果】

連続1週間の家庭血圧測定におけるアドヒアランスは、通常では、Ⅰ：91.7%、Ⅱ：71.2%、Ⅲ：67.5%、Ⅳ：62.3%であったが、遵守限定だと、Ⅰ：50.8%、Ⅱ：40.3%、Ⅲ：19.1%、Ⅳ：30.5%となった。また、記録の選択バイアスについては、Ⅲの記録値と実測値の平均値に有意差が認められた。

### 【考察】

血圧計配布・測定指示直後のアドヒアランスは高いが、時間経過とともに低下し、指示通りの測定・記録継続は難しいと考えられた。特に、記録表のみを回収した測定時期Ⅲにおいて、アドヒアランスの低下が著しく測定値の記録にも選択バイアスの影響が考えられたことから、血圧計に保存されたデータの確認がアドヒアランスと記録精度の向上に有効であることが示唆された。

### 【結論】

健常男性が家庭血圧を指示通りに長期継続測定し正確に記録することは困難であるが、血圧計に保存されたデータを確認する等の測定者への働きかけがアドヒアランスと記録精度の向上に有効であることが示唆された。